## 解説

# 近代的施工を担う 推進工事技士

福田信弘

南野建設(株) 名古屋支店工事課課長 (推進工事技士 1級土木施工管理技士)

### 1 はじめに

昭和54年に18歳で入社し、現在62歳となり約半世紀近く推進工事に携わって参りました。その間推進技術の進歩は目覚ましく、それまで培ってきた経験とさらに新たな技術が導入され長距離、急曲線、鉛直曲線を含む複合曲線の施工が可能となり、難易度も昔に比べて高くなりました。そのため、推進施工を行う際は、高度な技術的要求に応えるため基礎学習が必要でその得た知識をベースに仕事に取り組むことが肝要であると考えます。その一環として推進工事技士の資格取得と新技術の知識更新は必要なものと思いますし、推進工事で対価をいただく者としては、推進工事技士の資格は必須ではないかと思います。

#### 2 資格取得を目指したきっかけ

資格取得は、当社の推進工事に携わる職員の必須 科目のように半ば強制的に試験を受けることになりました。 そんな心持ゆえに、2回試験を受けましたが2回とも不 合格となり3度目の挑戦でやっと合格しました。今思えば 意識不足で恥ずかしい次第です。当時の試験内容と比 べると現在は工法も多種多様なため専門的要素を求め られ大変難しくなっていると思います。それゆえに、資 格更新時の講習は推進工事に携わるものには新たな知 見を得られる絶好の機会だと思っております。

#### 3 活用事例

資格を取得し更新講習を数回経験した中で、これが 有用に感じられた事例として過去に施工した長距離急 曲線施工の工事例を紹介します。

過去の推進工事の中でも難工事の一例です。

#### 【工事概要】

工 法: 泥水式推進工法

呼 び 径:1200 推進用鉄筋コンクリート管

推進延長:(J1~J2) L=217.2m

(R = 500, CL = 17m)

 $(J2 \sim F1) L = 761.6 m$ 

(R = 150, CL = 40m)



図-1 現場位置図